

しゅうそごうたんえ
宗祖降誕会

■ 楽曲データ

歌詞：鈴木行三 作詞

楽曲：野村成仁 作曲（藤井制心 編曲）

発表：—

初演：—

初出：『青年讃仏歌』 興教書院 1921年

管理番号：M1479

■ 創作の経緯

日曜学校運動において創作され、用いられた「讃仏歌」の1曲。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第3巻収録

底資料：『和英標準佛教讃歌勤式集』 本派本願寺内翻訳課 1939年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

「降誕会」は、生きとし生くるすべてのものを救う「阿弥陀如来の真実のみ法」を伝えてくださった宗祖親鸞聖人のご誕生をよろこぶと共に、私たちが仏法に遇わせていただく集いです。

「降誕会」とは、もともとお釈迦さまのご誕生を祝って行う法会のことでしたが、諸宗派の宗祖のご誕生を祝う法会のこと、同じように呼ぶようになりました。

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご誕生をお祝いする「降誕会」が始まったのは、そんなに古いことではありません。宗門では、1887（明治20）年、第21代明如上人が、御影堂において特別の法要を営まれたことに始まり、以後、一般寺院でも徐々に降誕会をお勤めするようになりました。近年は、この集いにあわせて赤ちゃんの初参式（初まいり）を行うお寺もふえてきました。お寺によっては、お祝いの餅まきをしたり、仏婦会員の歌や踊りでにぎやかな祝宴を催されるところもあるようです。

さて、宗祖親鸞聖人は、ご自身の出生やご一生について、そのご著書のなかではほとんど触れられていません。ただ、『教行信証』化身土巻末の後序（註釈版聖典471ページ）には、親鸞聖人が法然聖人の吉水の教団においてお念仏の

み教えを聞いておられた頃、その教団が朝廷（国家）によって解体させられるという弾圧を受けた「承元の法難」（1207年）について、明らかに記されています。

そのほかには、『唯信紗文意』の末尾に、

康元二歳（一二五七年）正月二十七日

愚禿親鸞八十五歳これを書写す。（註釈版聖典718ページ）

という記述があることなどから、宗祖のご誕生は1173（承安3）年であったことがわかっています。

5月21日（旧暦4月1日）、京都・日野の里で誕生されました。父は日野有範。母は吉光女であると伝えられていますが、はっきりしたことはわかりません。

この曲は、1921（大正10）年刊行の『青年讃仏歌』に掲載されていますので、それ以前に作曲されたものと推測されます。

作詞の鈴木行三は、本願寺派日曜学校同人のひとりです。6行2連の詞は、親鸞聖人ご誕生の意義を明らかにし、「讃えまつれ今日の日を／祝いまつれ今日の日を」と、繰り返し力強く讃えています。

作曲の野村成仁（1874～1947）は、「讃仏歌の父」と称され、長く京都・平安中学校に勤務されました。《報恩講の歌》や《合掌の歌》《みほとけにいだかれて》など、数々の仏教讃歌や童謡を作曲しています。

◆詞について

・われひとの＝私や他の人びとの。

・無漏の灯＝迷い深い凡夫を導く阿弥陀如来の智慧の光。「漏」は、さまざまな心の汚れを総称して表す語。汚れがすべて滅し尽された状態を「無漏」といいます。

・甘露の雨＝苦悩を癒す甘い液体。阿弥陀如来を「甘露王」ともいいます。阿弥陀如来の慈しみを例えた言葉。お釈迦さまご降誕の時にも、この雨が降ったといわれます。

◆歌い方について

① 快いテンポを持つ曲です。明るく軽やかに歌いましょう。

② 8分音符が続くところは、できるだけなめらかに（レガート唱法で）。

③ 1・5小節目の下降音階は、あまり急がないようにして。また、音程にも注意。

④ 2・6小節目の3拍目の音（レ）は、ていねいに置くように。響きを支えること。

⑤ 3小節目のいちばん高い音（レ）が、きちんと届くように。

⑥ 12小節目の付点2分音符は十分に保ち、13小節目の最初の音（1オクターブ

下のレ) をしっかりとる。

⑦15小節目のスタッカートは、あまり短くなく、喜びにはずむ心を大切に。

⑧17・18・21・22小節目は、高音が続くので、十分に喉を開いて。特に18・22小節目の「つ」の発声に気をつけて。響きを豊かに。

⑨最後の8小節は、ことに明るく。宗祖を讃える気持ちを十分に表わすように。

◆用途など

宗祖降誕会の時には、ぜひ歌ってください。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 28（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第153号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.